キャリタス進学 キャリタス就活

2026 年卒・就活経験者にきいた「大学進学に関する調査」

2025 年 12 月発行

2026年春に大学または大学院を卒業する学生に、大学選びの際に着目した点や、大学進学時のキャリア意識などを尋ね、入学後の学業への取り組み姿勢や、入社予定企業への満足度との関連性を調べた。その結果、満足度の高い大学生活や就職先選びに結びつく要因が見えてきた。

これから大学選びを行う高校生にとっても示唆に富むデータが得られた。

■ 目次

［1］大学生活の満足度
［2］大学入学前後のギャップ
［3］進学先検討時の情報収集
［4］進学先検討時のキャリア意識
［5］入社予定企業の満足度、専攻分野との関連性
［6］大学満足度と就職先満足度の相関
［7］学業への取り組み姿勢と就職先満足度

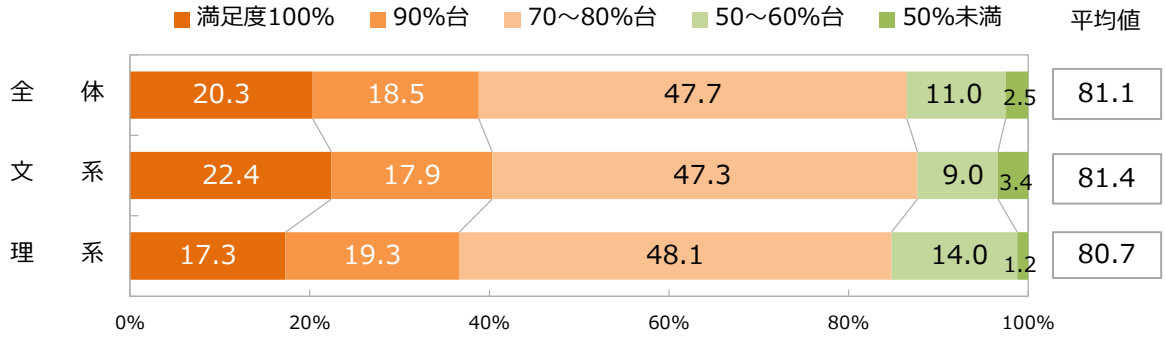
■ 調査概要

調 査 対 象 ：2026 年 3 月に卒業予定の大学 4 年生のうち就職先企業を決定した人
（理系は大学院修士課程 2 年生含む）
回 答 者 数 ：600 人（文系 357 人、理系 243 人：学部生 79 人、大学院生 164 人）
調 査 方 法 ：インターネット調査
調 査 期 間 ：2025 年 9 月 19 日～29 日
サンプリング：キャリタス就活 学生モニター2026
調 査 機 関 ：株式会社キャリタス　　キャリタスリサーチ／教育機関支援企画・オペレーション部

［1］大学生活の満足度

まず、調査時点で入学した大学（学部、学科）にどのくらい満足しているかを尋ねた。全体の 4 割近くが満足度を「90%以上」と回答（計 38.8%）。満足度の平均は 81.1%で、大学への満足度は総じて高い。

＜大学生活の満足度＞



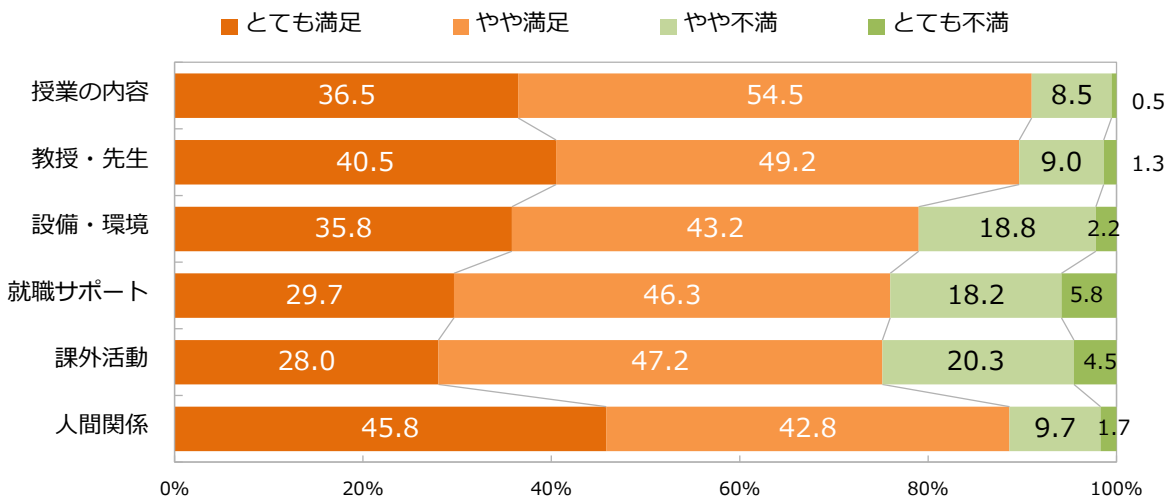
キャリタス

続いて、「授業の内容」「教授・先生」「設備・環境」「就職サポート」「課外活動」「人間関係」の 6 項目について、それぞれ満足状況を 4 段階で尋ねた。「授業の内容」「教授・先生」ともに満足度が高く、約 9 割が満足と回答（「とても満足」「やや満足」を合わせた数値）。「人間関係」も 8 割台後半と満足度は高い（計 88.6%）。寄せられたコメントを見ても、教授や友人とともに学びを深められている様子がうかがえる。

「設備・環境」の満足度は約 8 割（計 79.0%）。図書館や研究設備などの充実度が満足度に影響しているようだ。「就職サポート」の満足度は計 76.0%。親身に相談に乗ってもらえたおかげで満足のいく就職先が決まったという声も少なからずある一方、もう少し手厚いサポートを望む声も見られた。

総じて高い中で、満足度が最も低いのは「課外活動」（計 75.2%）。コロナ禍の影響で思うように活動できなかった人がいることも関係していると考えられる。

＜項目別満足状況＞



■大学生活への満足状況

«満足している点»

○学生がみな真面目で勉強に力を入れられる環境だった。勉強以外にも課外活動や留学などに取り組む人が多く、やる気をもらえると同時に、それぞれの個性を尊重する気持ちが一層高まったと感じる。 <文系女子>

○実習を通して、実際のものづくりを学べたことに満足している。 <理系男子>

○1 年次からゼミの授業があり、教授と近い距離で高い学びを得られた。 <文系男子>

○学生数が多い分、部活やサークルもたくさんあり、学部以外のコミュニティーを作れた。 <理系女子>

○一生モノの友達ができた。 <文系男子>

○先生や職員との距離が近く、学業面での質問や生活面での不安も解消できる環境が整っていた。 <文系女子>

○特に就活に関しては、大学が多くの企業との接点を設けてくれたため、大変満足。 <理系男子>

○設備や校舎もきれい、かつ同級生も多かったので充実していた。 <文系男子>

«不満な点»

○自分が受けたい授業が抽選で受けられないことがあった。 <文系男子>

○自分が所属する学部だけ他学部と別のキャンパスだったため、他学部との交流がほぼなかった。 <理系女子>

○コロナ禍での入学だったため、課外活動や人間関係の構築はほぼ不可能だった。 <理系男子>

○大学生活には満足しているが、家からの通学時間が長く大変だった。 <文系男子>

○Wi-Fi がかなり弱いので、設備についてはやや不満です。 <文系女子>

○就活サポートは、自分から動かないとあまり恩恵はなかったと思う。 <理系男子>

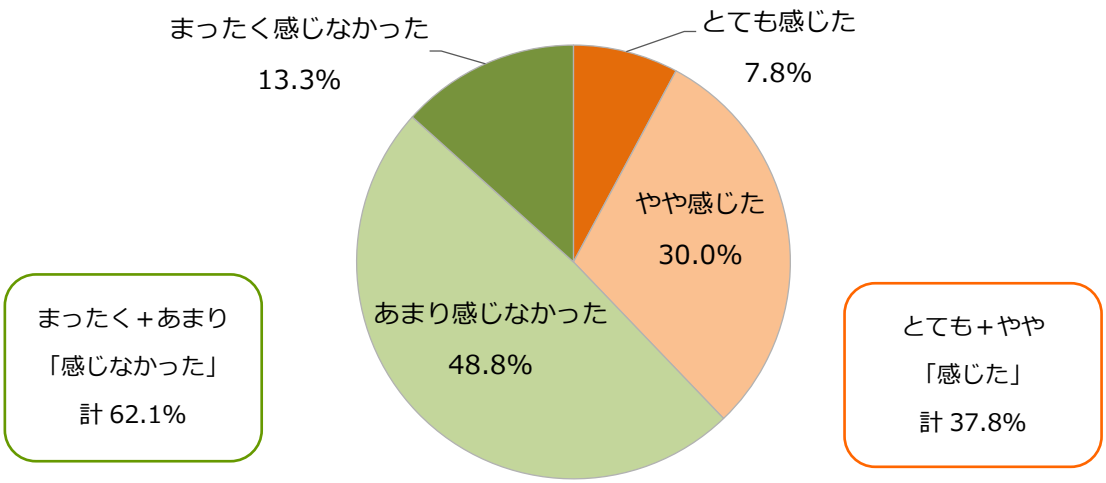
［２］大学入学前後のギャップ

入学前にイメージしていた大学生活と実際とで、どの程度ギャップを感じたかを尋ねた。

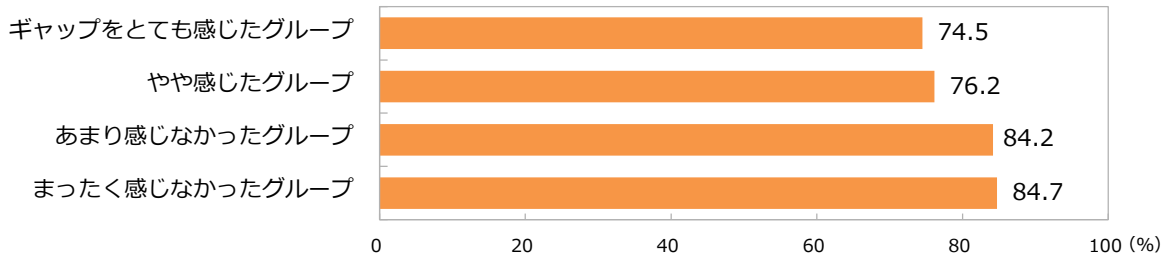
「とても感じた」は 1 割未満だが（7.8%）、「やや感じた」（30.0%）を合わせると、4 割近くの学生がなんらかのギャップを感じていた（計 37.8%）。寄せられたコメントからは、事前の情報収集不足がギャップに結びついているケースが多いことがうかがえる。

なお、ギャップの度合い別に大学満足度を算出したところ、ギャップを「とても感じた」グループでは平均 74.5%であるのに対し、「まったく感じなかった」グループでは 84.7%と、10 ポイント以上の差が見られた。ギャップの有無が大学満足度に影響していることが推測できる。

＜大学入学前後のギャップ＞



＜大学入学前後のギャップ別大学満足度（平均）＞



■具体的に感じたギャップ

«悪いギャップ»

○実際に勉強することが、想像していた内容と全然違った。 <文系男子>

○思ったより授業理解に時間がかかり、あまりサークルや遊ぶ時間がなかった。 <理系女子>

○授業内容が他大学の同学科に比べ、幅広く浅いということを入学してから知った。 <理系男子>

○校内が広すぎて教室の移動で休み時間がほぼなくなった。 <文系女子>

«良いギャップ»

○何事も自分自身で進めなければいけないと思っていたが、履修や就職活動についても、職員に相談に乗ってもらい、サポートを受けることができた。 <文系女子>

○知的でおとなしい学生が多いと思ったが、明るくて気さくな学生も多かった。 <理系男子>

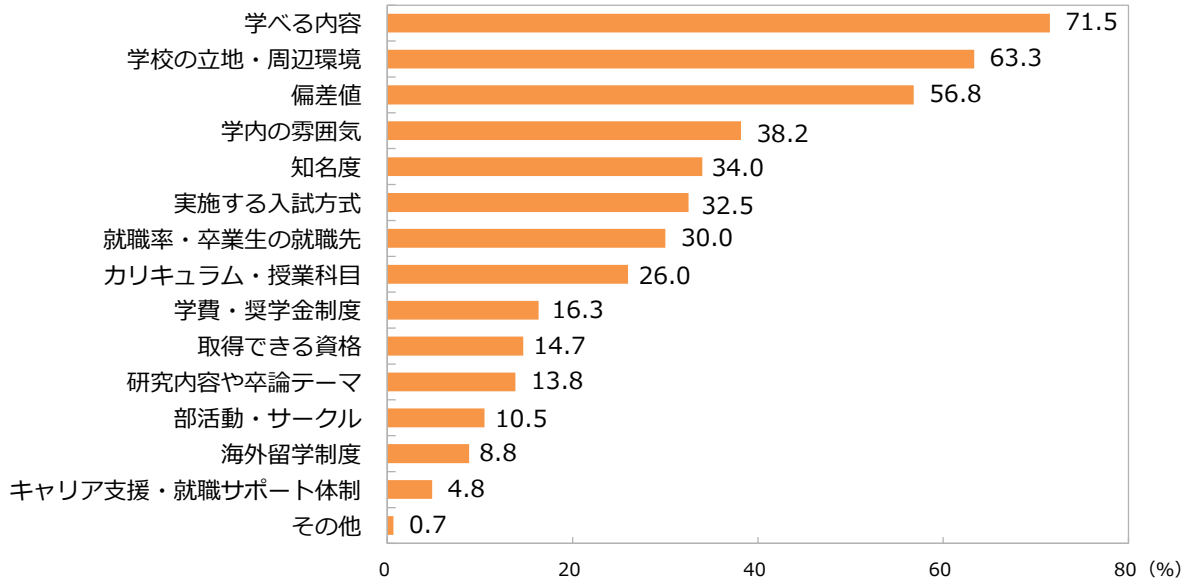
○マンモス校なので先生とは仲良くなれないと思っていたが、実際には比較的少人数クラスが多く、先生とも仲良くなれた。 <文系女子>

［３］進学先検討時の情報収集

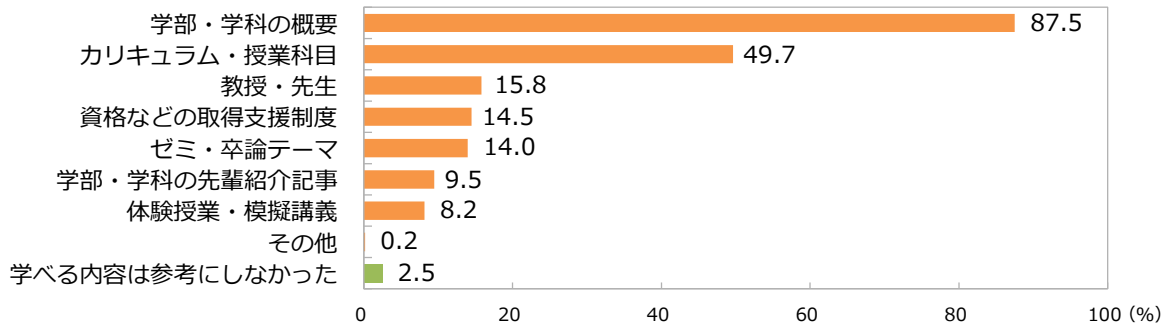
志望校検討の際に調べたことを尋ねた。最も多いのは「学べる内容」で 71.5%。次いで「学校の立地・周辺環境」（63.3%）、「偏差値」（56.8%）が続く。

「学べる内容」のうち具体的に参考にしたことは、「学部・学科の概要」が圧倒的に多い（87.5%）。2 番目に多いのは「カリキュラム・授業科目」で、半数近くが選んだ（49.7%）。

＜進学先検討時に調べたこと＞



＜参考にした「学べる内容」＞



■志望大学を検討する際に参考になった情報や調べ方

○オープンキャンパスで実際に話を聞くことで、学校の雰囲気や学べる内容の情報を得たことがとても参考になった。また、パンフレットで、カリキュラムや就職実績を調べたことも参考になった。 ＜理系男子＞

○コロナ禍だったため、パンフレットを取り寄せて学べる内容を知り、YouTube で学校の雰囲気を知った。 ＜文系女子＞

○何を学ぶことができるのか、どのような研究室があるのかは学校のホームページなどで確認した。その他サークルや学内の雰囲気などは SNS を見た。 ＜文系女子＞

○実際に志望大学に進学している先輩に話を聞いた。 ＜文系男子＞

○大学の立地は調べておいてよかった。入学後にキャンパスの場所を知った友人が多くいた。 ＜理系女子＞

○学部・学科ごとの学べる内容や、在学生の 1 日の過ごし方などの情報が参考になった。オンラインのオープンキャンパスに参加して情報を得た。 ＜文系女子＞

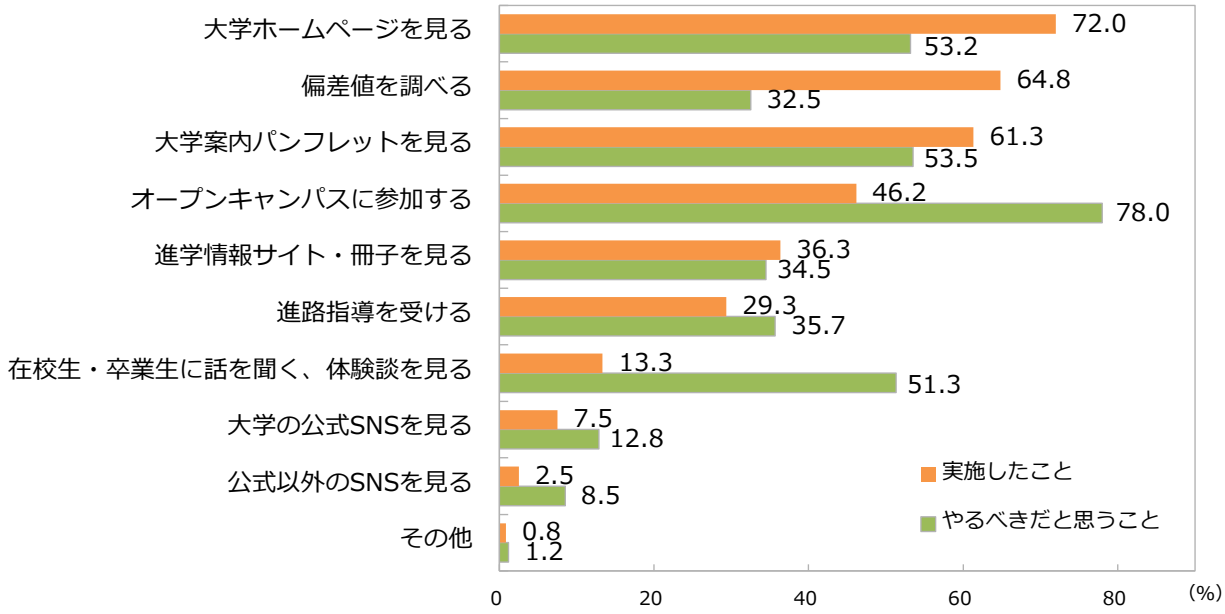
次に、入学した大学の受験にあたり実施したことと、実際に大学生活を送った上で、進路選択にあたり「やるべきだと思う」ことを、項目を揃えて尋ね比較した。

自身が実施したこととして最も多いのは「大学ホームページを見る」（72.0%）。「偏差値を調べる」（64.8%）、「大学案内パンフレットを見る」（61.3%）までが 6 割を超え、多くの学生が実施したことがわかる。

一方、「やるべきだと思う」こととしては「オープンキャンパスに参加する」が圧倒的に多く、8 割近くが選んだ（78.0%）。「大学案内パンフレットを見る」（53.5%）、「大学ホームページを見る」（53.2%）、「在校生・卒業生に話を聞く、体験談を見る」（51.3%）が 5 割台で続く。

「在校生・卒業生に話を聞く、体験談を見る」「オープンキャンパスに参加する」は、実施した割合に比べ、やっておくべきだと回答した割合が圧倒的に高く、入学後に重要性を感じる学生が多かったことがうかがえる。コロナ禍で高校 3 年次を過ごした学生が多いことも影響しているとみられる。

＜入学した大学の受験にあたり実施したこと／やるべきだと思うこと＞



【参考】大学満足度別

(%)

	大学満足度					
	高位グループ		中位グループ		低位グループ	
	実施した	やるべき	実施した	やるべき	実施した	やるべき
大学ホームページを見る	73.8	57.5	71.3	52.4	69.1	43.2
偏差値を調べる	66.1	32.2	65.4	34.6	59.3	25.9
大学案内パンフレットを見る	61.4	57.1	63.6	52.8	53.1	45.7
オープンキャンパスに参加する	50.2	82.4	45.8	78.3	35.8	64.2
進学情報サイト・冊子を見る	37.3	39.1	35.0	34.3	38.3	22.2
進路指導を受ける	31.3	39.1	28.0	31.5	28.4	40.7
在校生・卒業生に話を聞く、体験談を見る	16.7	52.4	10.8	52.4	12.3	44.4
大学の公式SNSを見る	8.2	15.0	6.3	11.5	9.9	11.1
公式以外のSNSを見る（在校生のSNS含む）	2.6	7.3	2.8	9.1	1.2	9.9
その他	1.3	0.4	0.7	2.1	0.0	0.0

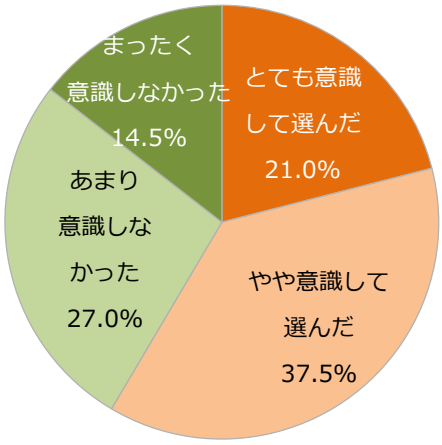
※「大学満足度」90%以上＝高位グループ、70～90%未満＝中位グループ、70%未満＝低位グループ

［4］進学先検討時のキャリア意識

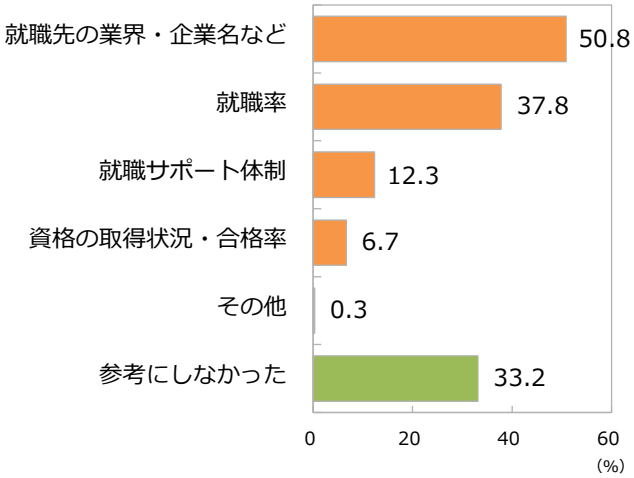
将来のキャリアや就職を意識して大学（学部・学科）を選んだかどうかを尋ねた。「とても意識して選んだ」が約 2 割（21.0%）、「やや意識して選んだ」が 4 割弱（37.5%）で、過半数が将来のキャリアや就職を意識して進学先選びを行ったと回答した（計 58.5%）。

具体的にどのような情報を参考にしたのだろうか。最も多いのは「就職先の業界・企業名など」で半数強（50.8%）。次いで「就職率」（37.8%）。大学の就職関連情報を「参考にしなかった」学生は約 3 割で（33.2%）、大半が就職関連情報を参考にしていた。

＜進学先検討時のキャリア意識＞

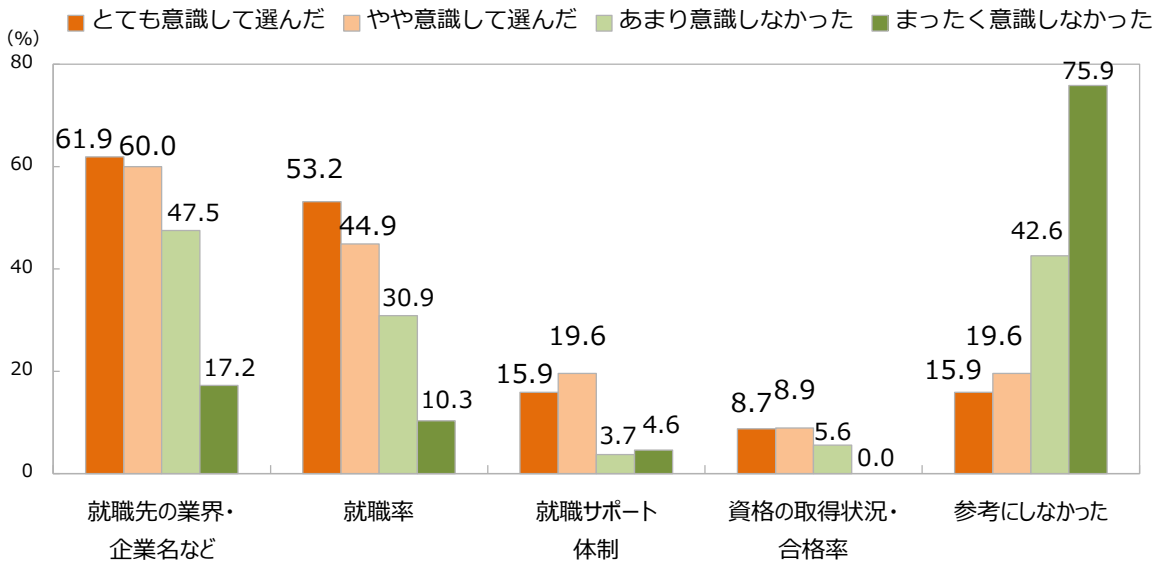


＜志望大学検討にあたって参考にした「大学の就職関連情報」＞



進学先検討時に将来のキャリアを意識していた学生と、そうでない学生とでは、大学の就職関連情報を参考にしたかどうかに大きな差が見られる。「就職先の業界・企業名」については「意識して選んだ」と回答したグループは 6 割に達しており、大半が具体的な就職先まで参考にしていた。将来のキャリアを「まったく意識しなかった」グループでは 17.2%にとどまる。

＜進学先検討時のキャリア意識度 × 参考にした「大学の就職関連情報」＞



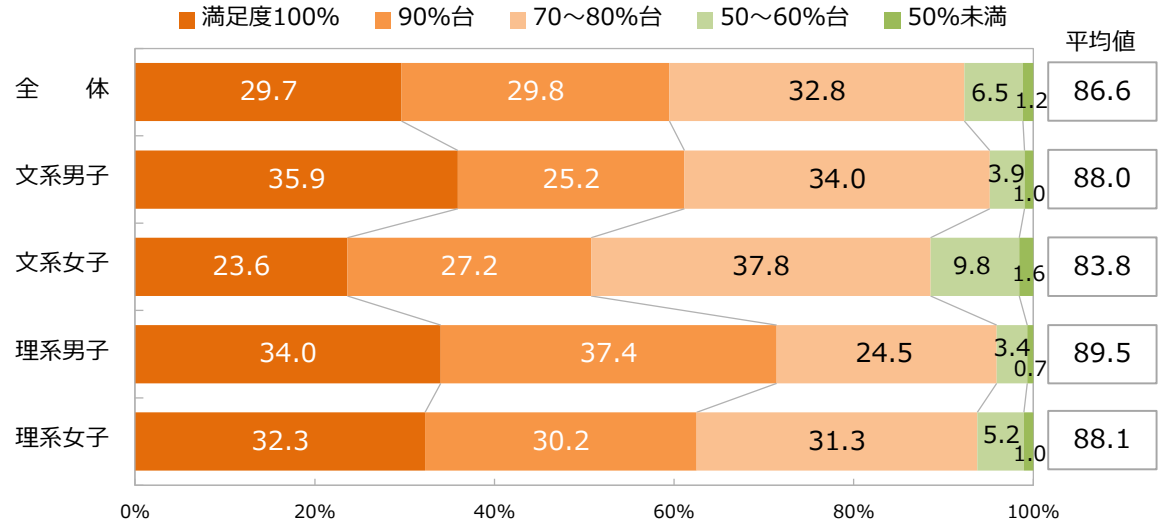
［5］入社予定企業の満足度、専攻分野との関連性

ここからは、就職先と大学生活の関連について検証したい。

卒業後に入社を予定している企業への満足度を尋ねると、全体のおよそ 3 割が「100%」と回答し（29.7%）、「90%台」を合わせて 6 割近くが満足度 90%以上と回答した（計 59.5%）。就職先満足度の平均値は 86.6%。大学満足度（1 ページ）の 81.1% よりさらに高い。

大学満足度は「実際に大学生活を送った上での満足度」であり、就職先満足度は「今後への期待」という側面はあるものの、就職先に対して多くが満足しているようだ。

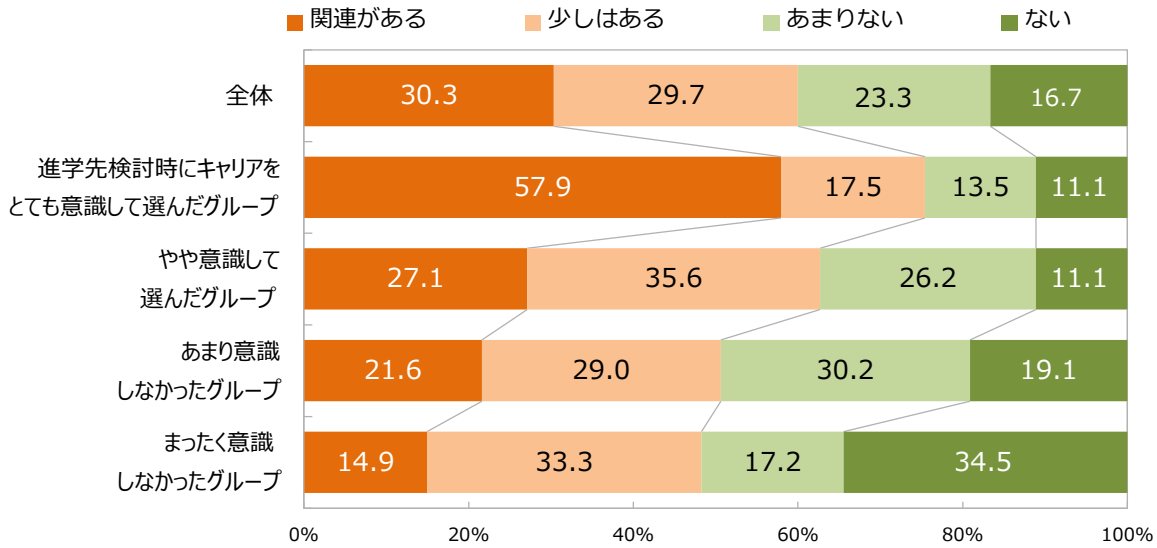
＜入社予定企業の満足度（就職先満足度）＞



就職先の業種や職種が大学の専攻分野と「関連がある」と回答したのは全体の約 3 割（30.3%）。「少しはある」も約 3 割（29.7%）。

これを進学先検討時のキャリア意識別に 4 つのグループに分けて算出した。進学検討時にキャリアをとても意識したグループでは、「関連がある」は 6 割近くに上る（57.9%）。一方、まったく意識しなかったグループでは「関連がある」という回答は 1 割台にとどまり（14.9%）、「関連がない」が 3 割を超える（34.5%）。

＜進学先検討時のキャリア意識×就職先の業種・職種と専攻分野の関連性＞

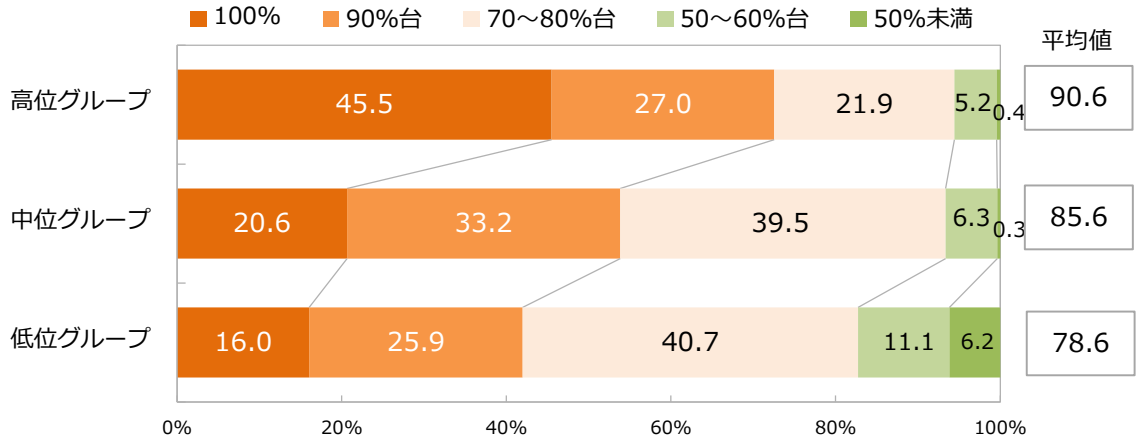


［6］大学満足度と就職先満足度の相関

大学満足度を 3 つのグループに分け、グループ別に就職先企業の満足度を算出した。

「大学満足度 90%以上」と回答した高位グループでは、就職先満足度を 100%と回答した人が 4 割を超え（45.5%）、平均が 90.6%と高水準。一方で、大学満足度低位グループでは、就職先満足度 100%と回答した人は 1 割台で（16.0%）、満足度の平均は 78.6%にとどまる。大学満足度が高いほど、就職先満足度も高い傾向が顕著に表れている。

＜大学満足度×就職先満足度＞

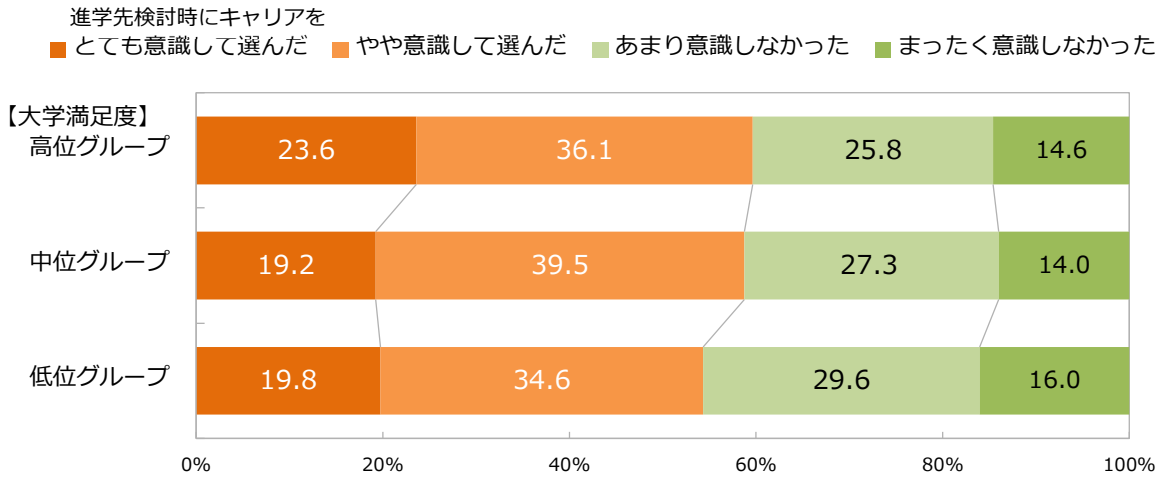


※「大学満足度」90%以上＝高位グループ、70～90%未満＝中位グループ、70%未満＝低位グループ

大学への満足度が高い学生はどのような学生だろうか。大学満足度別に、進学先を選ぶ際のキャリア意識度を算出してみた。大学満足度高位グループでは、将来のキャリアを「とても意識して選んだ」と回答した学生が 23.6%と、他グループより高め。「やや意識して選んだ」（36.1%）を合わせると 6 割近くに上る（計 59.7%）。一方、大学満足度低位グループでは、進学先検討時にキャリアを意識していたのは計 54.4%。

大きな差ではないものの、大学満足度が高いグループほど、進学先選びの際のキャリア意識度合いは高く、一定の相関関係が認められると言えそうだ。

＜大学満足度×進学先検討時キャリア意識＞

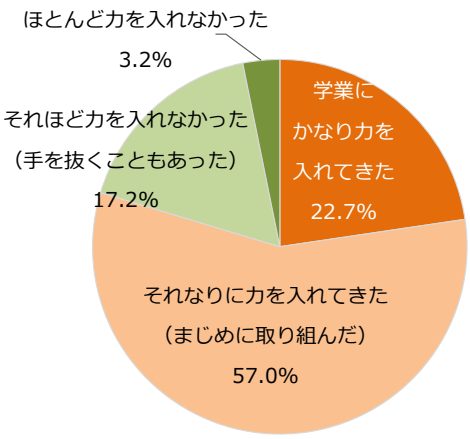


［7］学業への取り組み姿勢と就職先満足度

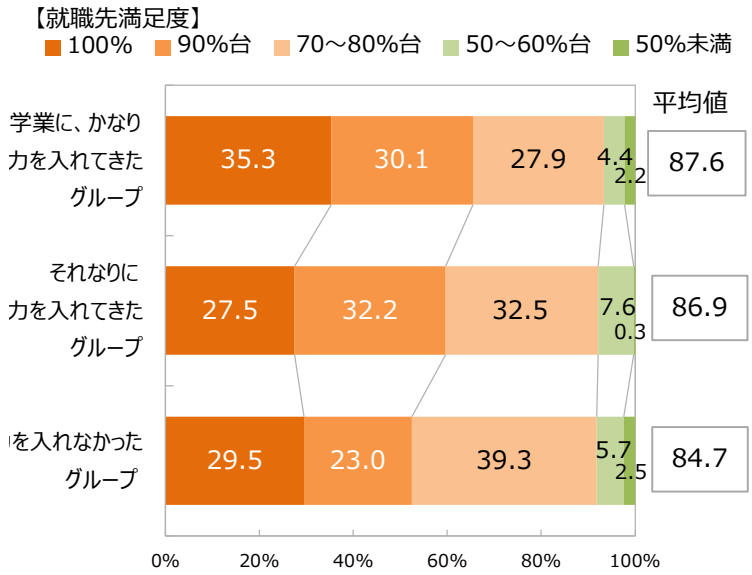
大学進学後にどのくらい学業に力を入れてきたかを尋ねると、「それなりに力を入れてきた（まじめに取り組んだ）」が最も多く（57.0%）、「かなり力を入れてきた」は約 2 割（22.7%）。

この学業への取り組み姿勢別に就職先満足度を見ると、「学業にかなり力を入れてきた」と回答したグループでは、3 割以上が就職先満足度を「100%」と回答（35.3%）。平均も 87.6%と高水準。学業への取り組み姿勢と就職先の満足度はある程度の相関が見られる。

＜学業への取り組み姿勢＞

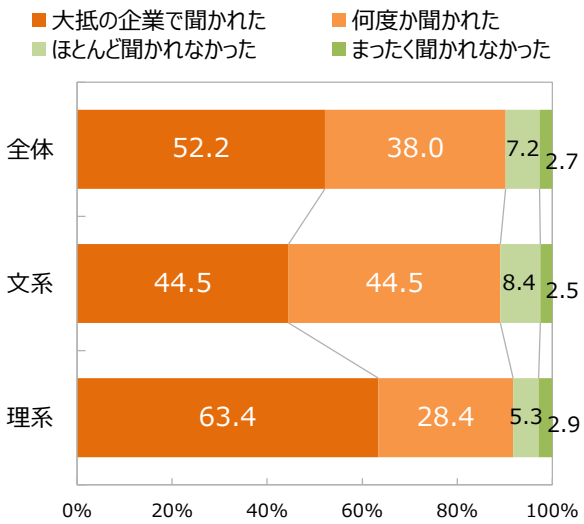


＜学業への取り組み姿勢×就職先満足度＞

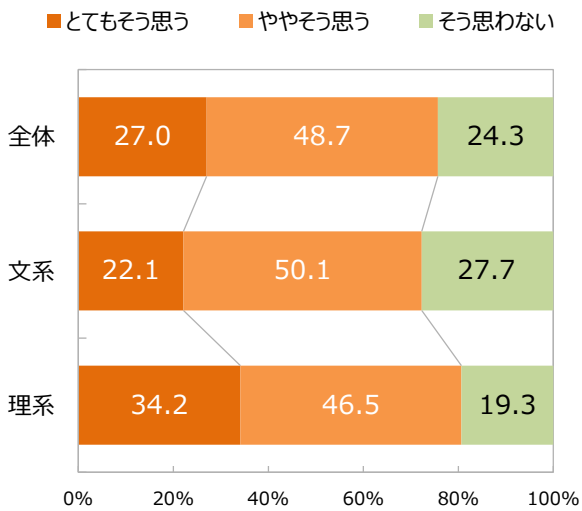


就職活動の選考（面接など）で、学業について聞かれたことがどの程度あるかを尋ねた。「たいていの企業で聞かれた」が過半数（52.2%）。特に理系で多く、6 割を超える（63.4%）。文理にかかわらず、ゼミや研究テーマ・卒論の内容、その分野を選んだ理由、単位状況など、聞かれる内容は多岐にわたるようだ。ただ、企業は選考で学業についてもっと聞くべきだと感じる学生は、「とてもそう思う」「ややそう思う」を合わせて 7 割を超えており（計 75.7%）、学業の成果や成果で習得したものを評価してもらいたいという学生が少なくないとみられる。

＜就職活動で学業について聞かれた経験＞



＜学業についてもっと聞くべきだと思うか＞



■大学生活で楽しいこと

○好きな授業が選べるため、学びたい内容を学ぶことができる。 <文系女子>
○大学等の研究機関や自治体と共にサークル活動を行うなど、活動の幅が格段に広がること。 <文系男子>
○研究活動が実を結んだとき。また学業成績がよかった時。 <理系男子>
○ゼミの教授と 2～4 年生で交流があり、とてもよくしてもらったため、とてもよい経験だった。 <文系女子>
○留学したこと。短期だった分内容が濃く、普段は関わらない人や他大学の人とも仲良くなれた。 <文系女子>
○学業も初めてのアルバイトも友人関係も何もかもすべてが高校時代までとは桁違いのスケールで、世界がぐっと広がった。経験したことすべてに、挑戦の価値があったと確信している。 <文系女子>
○夏休み自主ゼミを開いて、朝から晩まで数学書を読んだりしていたのが楽しかった。 <理系男子>
○好きな授業を選べること。興味のあることをより深めることができます。また、研究テーマを自分で立案できたので楽しかったです。 <理系女子>
○同じ資格の合格を目指す学友に会えたことはよかった。また、体育会系の部活動に所属したことで OB・OG とのつながりもできた。 <文系男子>

■大学生活で楽しくない・嫌だと思うこと

○必修の授業で、自分に向いてない講義は嫌だったが、今なら成長の機会だったなと思う。 <文系女子>
○お金の管理が大変。少ない中でどのようにやりくりするか。 <理系男子>
○オンライン授業が多すぎるとやる気がなくなるタイプでした。 <文系女子>
○サークルや委員会に入らないと友人が作りづらいということ。 <文系男子>
○学食は昼休みに多くの生徒が利用するので、お昼は常に満員で不満です。 <理系女子>
○サークル等の運営も基本学生主体で行うため、うまくいかないこともある。 <文系女子>

■大学で身につけると、就活や社会人生活で活かせると思うこと

○論理的に考える力。自分の考えを分かりやすく伝える力。 <理系女子>
○語学や専門的な資格はアピールできるし、社会人になってからも活かして仕事をできると思う。 <文系男子>
○多くの人をまとめ、一つの目標に導くリーダーシップ。意見を論理的にまとめて発する力。協調性。 <理系男子>
○研究をする中で身につけた課題解決能力が活かせると思う。 <理系女子>
○授業ごとに課題の締切や提出物が異なるため、計画性をもって取り組む力を自然と身につけることができた。就活においても、各企業の要項を確認し、自分でスケジュール管理をする必要があるため、大学生活で得た力を活かすことができた。 <文系女子>

■高校生へのアドバイス（進路選びについて）

○自分が学びたい、面白そうと思った学問や授業がある大学を選ぶべき。 <文系男子>
○実際にキャンパスに行くことを強くお勧めします。モチベーションアップにもつながります。 <文系女子>
○体験講義があるはずなので、面白い先生がいるか見つけてみると良いと思う。 <理系男子>
○大学公式以外の SNS の意見を見過ぎない方がいいと思う。デタラメな投稿も多いため、自身が抱いた直感を大切にしてほしい。 <文系女子>
○理系を目指すなら研究室訪問をして研究費がどのくらいなのか、コアタイムはあるのか、教授は親身になってくれるかなどを調べるべし。 <理系男子>
○迷ったときは一人で抱え込まずに、友人や家族、学校の先生などに相談してみると、新しい考えや価値観に出会えるかもしれないので、積極的にまわりを使ってください。 <文系男子>